

OMIC Food Safety Newsletter No. 513 September 18, 2020

日本の食品安全情報をタイムリーに日本語とタイ語で解説するニュースレターです。

★ 今週のトピックス (日本の厚生労働省からの情報)

モニタリング検査の追加(違反による強化または検査命令解除による引下げ: 検査頻度 30%)

(2020年8月下旬~9月上旬)

通知	対象食品 (含加工食品)	検査項目	区分	備考、参照 URL
8/28	中国産まつたけ	アセトクロール	強化	https://www.mhlw.go.jp/content/11135200/000664477.pdf (基準値 0.01 mg/kg - ppm)
8/28	ベトナム産シソクサ	イソプロチオラン	強化	https://www.mhlw.go.jp/content/11135200/000664477.pdf (基準値 0.01 mg/kg - ppm)
9/4	ベトナム産イカ	クロラムフェニコール	引下げ	https://www.mhlw.go.jp/content/11135200/000667847.pdf (基準 不検出)
9/4	メキシコ産マンゴー	シペルメトリン	強化	https://www.mhlw.go.jp/content/11135200/000667847.pdf (基準値 0.03 mg/kg - ppm)

★ RASFF マンスリーレポート

EUにおけるタイ産食品の違反情報

(2020年8月下旬~9月上旬)

日付	届出国	届出理由	通知タイプ
8/26	アイルランド	冷凍加工鶏肉よりリステリア菌の検出(陽性/25g)	Information for attention
9/2-3	イギリス	キンマの葉よりサルモネラ菌の検出(陽性/25g)	Border rejection
9/2	イギリス	キンマの葉よりサルモネラ菌(陽性/25g)及び高濃度大腸菌(1,200 CFU/g)の検出	Information for attention
9/3	イギリス	パッタイペーストにおける表示不備(アレルゲンの強調表示の不備)	Information for follow-up

★ 米国 FDA 乳児用コメシリアル中の無機ヒ素に関する企業向け最終ガイダンスを発表

FDA はこれまで、2013年7月にリンゴジュース中の無機ヒ素への暴露による生涯発がんリスクの定量的評価を実施し、リンゴジュース中の無機ヒ素に関するアクションレベルとともに企業向けガイダンス案を発表しています。その後、2013、2016、2018年にコメ及びコメ製品に着目した無機ヒ素の調査を実施し、2016年4月6日に乳児用コメシリアル中の無機ヒ素に関する企業向けガイダンス案(アクションレベル)とリスク評価の報告書を発表し、2020年8月5日にこれを最終版にしたとのアナウンスを行っています。このガイダンスでは、アクションレベル 100 µg/kg (100 ppb) を設定しています。乳児用コメシリアルは、米国で最も一般的に消費されている乳児用シリアルで、米国においては、乳幼児は成人よりもコメ及びコメ製品が無機ヒ素の暴露源となりやすいとされています。

FDAは無機ヒ素への暴露が神経発達影響に関連があると判断したことから、今回の対応を行っており、直近10年間における乳児用コメシリアルの検査結果から、製造業者の適正な製造管理(優良適正規範: CGMP)によって、すでにこのアクションレベルが達成されていることが示されています。2018年サンプリングでは検体の76%がアクションレベル以下であり、それに対して2014年は47%、2011~2013年は36%となっており、特に精米シリアルで著しい改善が確認されています。

この無機ヒ素のアクションレベルは、それを超過しないよう推奨されている値であり、法的拘束力はありません。もし超過が確認された場合には、それが法律上の異物混入(adulterated)に該当するのかをケースバイケースで検討した上で執行措置を講じるとしています。

FDA: <https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-issues-final-guidance-industry-action-level-inorganic-arsenic-infant-rice-cereals>

※次号のOMIC Food Safety Newsletter No. 514の発行は、2020年10月2日とさせていただきます。